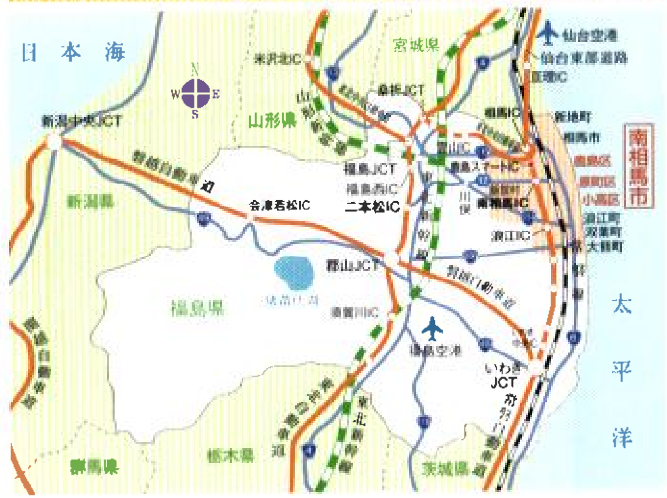
アクセスマップ


日本海
宮城県
山形県
福島県
新潟県
栃木県
群馬県
茨城県
太平洋
仙台空港
福島空港
新潟中央JCT
福島JCT
二本松IC
郡山JCT
相馬IC
南相馬IC
浪江IC
南相馬市

■飛行機利用の場合

●各空港→福島空港
※車利用＞福島空港から国道4号線を北上し、二本松経由で約120Km(約2時間40分)

●各空港→仙台空港
※車利用＞仙台空港～仙台東部道路～常磐自動車道～南相馬IC(約1時間)
※電車利用＞仙台空港駅～名取駅～原ノ町駅(約1時間30分)

■JR利用の場合

●東京駅 ―東北新幹線 はやぶさ1時間30分― 仙台駅
●仙台駅 ―常磐線 約1時間20分― 原ノ町駅
●東京駅 ―東北新幹線 やまびこ1時間30分― 福島駅
※車利用＞福島駅下車、県道原町・川俣線 約60Km(約1時間30分)
●品川・上野駅 ―常磐線 特急ひたち3時間30分― 原ノ町駅

■車利用の場合

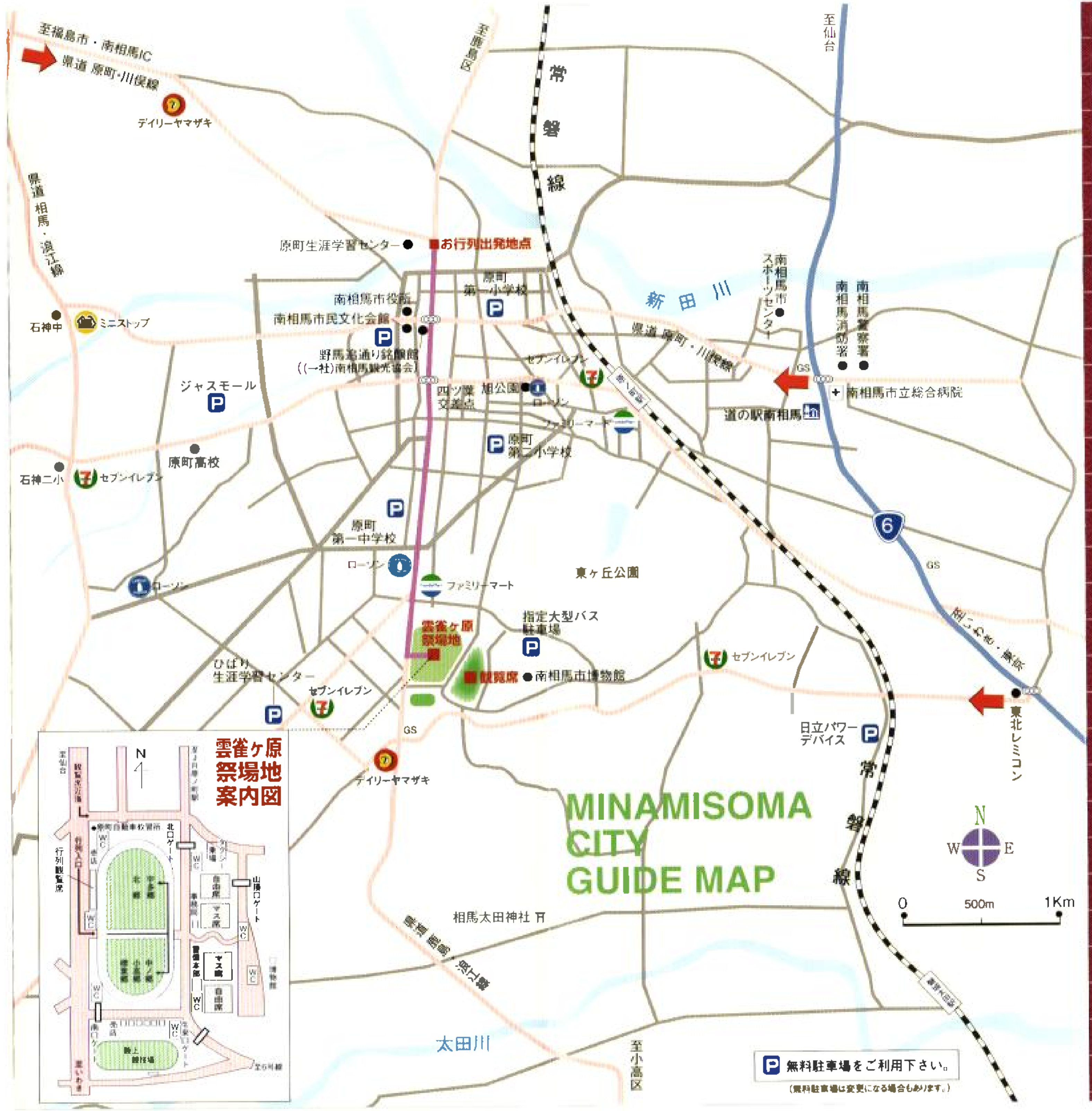
●福島～県道／原町・川俣線～南相馬市 約1時間30分
●二本松IC～(飯野～川俣)～南相馬市 約1時間30分
●東京～常磐自動車道～南相馬IC 約3時間
●東京～常磐自動車道～浪江IC 約3時間
●仙台～仙台東部道路～常磐自動車道～南相馬IC 約1時間15分

■観覧料金（2日目）お行列、甲冑競馬、神旗争奪戦の観覧料

ホームページから観覧料金の詳細や観覧チケットの購入情報がご覧いただけます。 詳しくはこちらから▶

●お問い合わせ●

(一社）相馬野馬追（相馬野馬追執行委員会）
〒975-8686 福島県南相馬市原町区本町2丁目27番地
TEL 0244-22-3064 FAX 0244-22-3100
https://soma-nomaoi.jp


MINAMISOMA CITY GUIDE MAP
雲雀ヶ原祭場地案内図
至鹿島区
至仙台
至福島市・南相馬IC
県道 原町・川俣線
常磐線
新田川
お行列出発地点
原町生涯学習センター
南相馬市役所
南相馬市民文化会館
原町第一小学校
野馬追通り銘醸館（（一社）南相馬観光協会）
ジャスモール
原町高校
原町第二小学校
原町第一中学校
石神中
石神二小
ミニストップ
セブンイレブン
ファミリーマート
ローソン
デイリーヤマザキ
道の駅南相馬
南相馬市立総合病院
南相馬消防署
南相馬警察署
南相馬市スポーツセンター
東ヶ丘公園
指定大型バス駐車場
雲雀ヶ原祭場地
観覧席
南相馬市博物館
ひばり生涯学習センター
日立パワーデバイス
相馬太田神社
太田川
至小高区
至浪江町
東北レミコン
N
W
E
S
0
500m
1Km

無料駐車場をご利用下さい。
(無料駐車場は変更になる場合もあります。)

TOPICS

騎馬武者の勇猛果敢な姿に海外の観衆がかたずをのむ

海外遠征

遠く海を越え、異国の地での相馬野馬追公演。はじめて目にする日本のサムライの雄姿にかたずをのむ。

世界にはばたく
相馬野馬追

2014年 ハワイ遠征

1991年 ロンドン遠征

LOS ANGELES
2005年 ロサンゼルス遠征

1993年 モスクワ遠征

相馬野馬追はアメリカ・イギリス・ロシア・ブラジルなど、世界各都市で遠征を行っています。どの国でも大きな歓迎を受け、公演後には割れんばかりの拍手喝采、そして最大の賛辞。本物のサムライの迫力とすばらしさが、海外の観衆の心を魅了しました。

【ロンドン】
ロンドン公演は1991年12月18日。ロンドンのジャパン・ソサエティ創立百周年を記念したイベント「ジャパンフェスティバル」(日本文化紹介の史上最大の行事)に参加しました。
【モスクワ】
1993年6月5日、日本とロシアの交流イベント「ハローロシア」で披露されました。これはファッションデザイナーの山本寛斎氏の企画によるもので、「人間賛歌」をテーマに開催されました。
【ハワイ】
ハワイへの出陣は、日本とハワイの文化交流イベント「まつり・イン・ハワイ」への招待を受けて参加しました。「まつり・イン・ハワイ」は単なるイベントではなく、海を越えたハワイの地で、独自の地方文化として受け継がれてきたそれぞれの「まつり」を披露する国際交流のステージでした。(1994年)(2014年)
【ロサンゼルス】
東京・大井競馬場とロサンゼルス・サンタアニータ競馬場との友好親善事業を記念して行われる「Japan Family Day」のイベントに日本の伝統馬事文化の代表として相馬野馬追が招聘。多様な交流事業として2002年から数年にわたり行われました。

テレビ・映画の時代劇でも活躍

相馬野馬追の騎馬武者がテレビ、映画に出演。

出演作品

1. 風林火山 ―― (1969年・三船プロ)
2. 天と地と ―― (1969年・NHK)
3. 国盗り物語 ―― (1973年・NHK)
4. 風と雲と虹と ―― (1976年・NHK)
5. 戦国自衛隊 ―― (1979年・三船プロ)
6. 若き日の北条早雲 ―― (1980年・テレビ朝日)
7. 関ヶ原 ―― (1981年・TBS)
8. おんな風林火山 ―― (1986年・TBS)
9. 独眼竜政宗 ―― (1987年・NHK)
10. 梟の城 ―― (1999年・梟の城製作委員会)
11. 絆～走れ奇跡の子馬 ―― (2017年・NHK)

千有余年の歴史を経て、
今なおいきづく伝統の祭。

国指定重要無形民俗文化財

相馬野馬追

SOMANOMAOI

2025
5/24土・25日・26月

5/24日(土)
・総大将お繰り出し（相馬市）・総大将お迎え（南相馬市鹿島区）
・宵乗り（南相馬市原町区）

5/25日(日)
・お行列（南相馬市原町区）
・甲冑競馬（南相馬市原町区）
・神旗争奪戦（南相馬市原町区）

5/26日(月)
・野馬懸（南相馬市小高区）

(一社)相馬野馬追（相馬野馬追執行委員会）

甦る
時代絵巻

相馬野馬追

一千有余年の歴史を経て
今なおいきづく伝統の祭

宵乗り
1日目

- ●御繰り出し…相馬市
  南相馬市（原町区・小高区）
- ●総大将お迎え…南相馬市（鹿島区）
- ●宵乗り競馬
- ●軍者会
  …南相馬市（原町区）

野馬追
2日目

- ●お行列
- ●甲冑競馬
- ●神旗争奪戦
  …南相馬市（原町区）
- ●火の祭…南相馬市（小高区）

野馬追の由来

相馬家の祖といわれている「平小次郎将門（たいらのこじろうまさかど）」は今をさかのぼること一千有余年の昔、新しい軍事力として馬の活用を考え、下総国小金ヶ原（現在の千葉県北西部）の牧に野生の馬を放牧し、関八州（北関東八ヶ国）の兵を集め、野馬を敵兵に見立て野馬を追い、馬を捕らえる軍事訓練として、また、捕らえた馬を神前に奉じ妙見の祭礼として行ったのに始まったと言われています。

その後、元亨3年（1323年）、相馬氏は陸奥国行方郡（現在の南相馬市）に移り住んでからも、代々の相馬家当主が、明治維新までこの行事を連綿と続けたのであります。

相馬家は鎌倉時代より幕末までお国替えのなかった希少な藩であり、現在でも総大将は相馬家の子孫が務めています。

福島県南相馬市を中心に相馬、双葉郡に至る、旧相馬中村藩領挙げて開催される国の重要無形民俗文化財「相馬野馬追」は、戦国時代のその昔から一千有余年の歴史を誇る日本を代表する伝統文化行事であります。

5月下旬の3日間、総勢約400騎の甲冑騎馬武者が出場し勇壮華麗にして豪華絢爛に繰り広げられる様は時代絵巻さながら。「相馬野馬追」は「世界一の馬の祭典」ともいわれています。

野馬懸
3日目

- ●野馬懸…南相馬市（小高区）

相馬野馬追【行事のあらまし】…一千有余年の歴史を経て

陣螺・指揮旗を合図にいざ出陣

■御繰り出し（1日目）

相馬太田神社・相馬小高神社・相馬中村神社の各妙見神社で御繰り出しの儀式が行われ、供奉する騎馬武者が御神輿を守護し、ご本陣・雲雀ヶ原祭場地へ繰り出します。

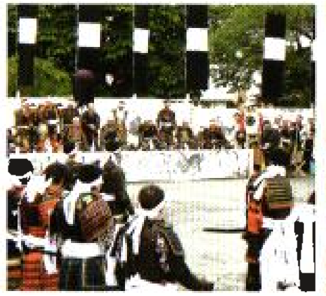
（相馬中村神社／相馬市）

総大将御繰り出し

■総大将お迎え（1日目）

北郷陣屋では、副大将を中心に、侍大将、副軍師がそろい、軍者をはじめとする各役付武者や螺役などが整列して総大将をお迎えします。総大将お迎えの儀式は厳粛にとり行われ、総大将訓示の後には、一同が雲雀ヶ原祭場地に向かって進軍します。

（南相馬市鹿島区）



総大将お迎え

宵乗り競馬

■宵乗り競馬（1日目）

雲雀ヶ原祭場地では、馬場清めの式を行い螺役の陣螺を合図に、白鉢巻きに陣羽織、野袴姿の騎馬武者達による馬具を着けての宵乗りが行われます。

（雲雀ヶ原祭場地／南相馬市原町区）

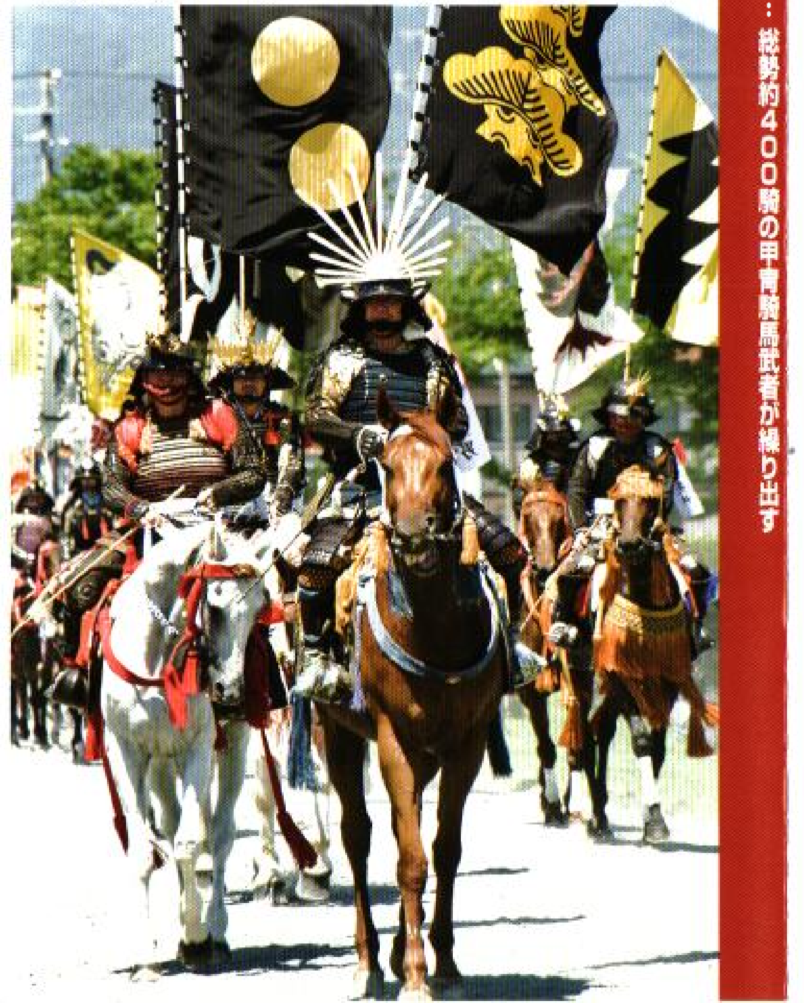
威風堂々、総勢約400騎の大軍が御本陣を目指す

■お行列（2日目）

午前9時30分、集結した騎馬隊は、陣螺陣太鼓が鳴り響き号砲の花火が炸裂すると、約3km先の雲雀ヶ原祭場地へと繰り出します。まず、相馬太田神社に供奉する中ノ郷（南相馬市原町区）勢を先頭に、相馬小高神社に供奉する小高郷（南相馬市小高区）、標葉郷（浪江町・双葉町・大熊町）が続き、殿は相馬中村神社に供奉する北郷（南相馬市鹿島区）、宇多郷（相馬市）勢が御本陣を目指して進軍します。

先祖伝来の甲冑に身を固めた総勢約400騎の騎馬武者が居並ぶ、威風堂々にして豪華絢爛な時代絵巻さながらの様は、まさに天下無比の圧巻であり、文化財的逸品が揃う「お行列」は動く文化財展として好事家に野馬追をもう一度見たいと言わせる所以です。

（野馬追通り／南相馬市原町区）



相馬野馬追【御繰り出し・宵乗り・お行列】…総勢約400騎の甲冑騎馬武者が繰り出す

騎馬武者の勇猛果敢な時代絵巻が甦る

■甲冑競馬（2日目）

正午、陣螺、陣太鼓が鳴り響くと、兜を脱ぎ白鉢巻きを締めた若武者が、大坪流の手綱さばきのもと、先祖伝来の旗指し物をなびかせ、人馬一体となり風を切り疾走する勇壮な甲冑競馬が開始されます。

（雲雀ヶ原祭場地／南相馬市原町区）

甲冑競馬

■神旗争奪戦（2日目）

午後1時、山頂の本陣から戦闘開始の陣螺が鳴り渡ると、満を持していた騎馬武者たちが、草茂る雲雀ヶ原一面に広がる。天中高く打ち上げられた花火が炸裂し、二本の御神旗がゆっくり舞い下りてくると、数百騎の騎馬武者がこの旗を目指しどっと駆け出し、御神旗の下に群がり鞭を振りかざし勇猛果敢に奪い合います。雲雀ヶ原祭場地は、戦場と化し祭りは最高潮に達します。

（雲雀ヶ原祭場地／南相馬市原町区）

神旗争奪戦

■野馬懸（3日目）

野馬懸は昔の名残をとどめている唯一の神事です。騎馬武者数十騎が裸馬を境内に設けた竹矢来に追込み、白鉢巻に白装束をつけた御小人と呼ばれる者たちが、多くの馬の中からおぼし召しにかなう荒駒を素手で捕らえ神前に奉納するという古式にそった行事です。

（相馬小高神社／南相馬市小高区）

野馬懸

相馬野馬追【甲冑競馬・神旗争奪戦・野馬懸】…勇猛果敢な時代絵巻が甦る